

滋賀県産業教育審議会の会議概要について (第1回・第2回・現地視察)

1. 第25期 滋賀県産業教育審議会への諮問事項等

<諮問事項>

「これからの産業教育の在り方について」

- (1) 社会の変化に対応した産業教育について
- (2) 教育環境の充実について

- 人口減少、少子高齢化の進行やグローバル化、情報化、技術革新の進展など、さらに急速に社会情勢が変化する中、新しい時代に対応した学びの提供や必要な産業分野で力を発揮できる人材の育成
- 職業系学科の魅力伝える方策や施設・設備の充実、外部資源の活用など、産業教育の方向性

<審議委員>

別紙、委員名簿のとおり

2. これまでの検討の経過

- 教育・文化スポーツ常任委員会

令和2年10月2日 滋賀県産業教育審議会について 説明

- 滋賀県産業教育審議会

令和2年10月29日 第1回会議 これからの産業教育の在り方について(諮問) 等

11月27日 現地視察 彦根工業高校、長浜北星高校、長浜農業高校

12月23日 第2回会議 論点の整理、各学科における課題、実態等の共有と把握
(専門委員2名の招聘)

- 教育委員会

令和2年10月16日 滋賀県産業教育審議会委員の選任について
滋賀県産業教育審議会への諮問について

12月22日 滋賀県産業教育審議会第1回会議 会議概要(案) 報告
産業教育施設・設備 学校見学会 結果概要(案) 報告

令和3年2月5日 滋賀県産業教育審議会第2回会議 会議概要(案) 報告

3. 議論の内容等

議論にあたっては、国の文教政策の動向や本県産業振興ビジョン、滋賀県高等専門人材育成機関検討会における高等専門学校に関する資料等について説明した後、これからの産業教育の在り方として、委員から御意見をいただき、下記の①から⑤の5つ論点で整理したうえで、議論を進めているところ。第2回会議では、学校現場の各学科における実態等について共有するとともに、①から④について議論した。

<5つの論点>

論点① 「Society5.0社会に対応した人材育成について」

論点② 「地域や産業界と連携した産業教育について」

論点③ 「産業教育の推進にかかる環境整備について」

論点④ 「魅力を伝える方策について」

論点⑤ 「各学科における学びの在り方について」

(1) 論点ごとの主な意見（第1回会議、第2回会議）

論点①「Society5.0 社会に対応した人材育成について」

- ・変化の速い Society5.0 社会に対応するためには、基本となる知識や技術をしっかりと身につけることが重要であり、そのうえで、民間企業等で最先端の技術に触れる機会や実習を提供することが必要。
- ・将来、IoTやAIなどの技術革新を推進できる技術者となるために、自身の進路をしっかりと導くためのキャリア教育の充実が必要。

論点②「地域や産業界と連携した産業教育について」

- ・地域や産業界との連携を進めるためには、学校とそれらのニーズのマッチングをコーディネートする部署や専門人材の配置が必要。
- ・高校生が学習の機会として参画できるようなプロジェクトやプランニングなどの取組を、企業や産業界のほうから創出していくような働きかけも求められる。

論点③「産業教育の推進にかかる環境整備について」

- ・施設設備については、全てを学校で整えるのではなく、最先端機器は企業に出向いて実習をさせてもらうなど、持続可能な仕組みを考えること。
- ・人的な資源として、産業教育を担う人材を確保することと、新しい産業、技術を教えることができる高いスキルを身につけるために、民間企業や大学で研鑽を積む研修制度の充実が必要。

論点④「魅力を伝える方策について」

- ・SNSや動画配信など時代に即した媒体を利用しながら、小・中学生やその保護者に専門高校を知ってもらう機会を増やすこと。
- ・小学校から大学までの教員の相互交流や中学校教員向けの研修など通じて、産業教育を広く理解してもらうことが必要。

(2) 現地視察（学校見学会）での主な意見

- ・実習室の空気感や生徒たちの姿から手に職をつけることのできている自身への自信と誇りが感じられ、しっかりと未来に向かう表情から3年間に得ているもの大きさを感じとれた。これから進路を選択する中学生には成長した高校生の姿に出会ってもらうことが専門高校の魅力を伝えることになるのではないか。
- ・各科の実習内容や第6次産業化を見据えた教育、例えば、農業高校に特化した課外活動など充実しているように感じた一方で、現行の機器、施設、設備の陳腐化、老朽化がかなり進んでおり、スマート農業などの最先端技術に対応した学習が行えているのか疑問に感じた。
- ・学校現場では、全てに最先端の設備は必要ないと思うが、生徒が安全に正しく基礎的基本的な専門知識・技術を身に付けることができる教育環境の整備は必要であり、今ある現状の備品、機器、設備では不十分なこと、老朽化が目立ち危険もあることに驚いた。

4. 今後のスケジュール（予定）

○ 滋賀県産業教育審議会

令和3年 3月頃	産業界等への意見聴取
5月頃～	第3回～5回会議
7月頃	答申

○ 滋賀県立高等学校在り方検討委員会

令和3年 2月16日	第4回検討委員会
5月頃～	第5回～8回検討委員会
	※滋賀県産業教育審議会の答申を踏まえた整理を含む
12月頃	答申

※県議会には適宜報告

第25期滋賀県産業教育審議会委員名簿

任期 自：令和2年10月29日 至：令和4年10月28日（2年間）

（敬称略）

	区分	氏名	現職等	備考
産業教育に関し学識経験のある者	学識経験者	蔡 晃 権	長浜バイオ大学 学長	会 長
		山 根 浩 二	滋賀県立大学 副学長	副会長
		笹 翠 貴由巳	滋賀短期大学 教授	
	産業関係者	川 口 剛 史	株式会社市金工業社 代表取締役社長	
		笹 村 裕喜枝	たねやグループ 執行役員営業本部長	
		山 崎 景	株式会社いと 代表取締役	
	学校関係者	萩 山 茂 也	滋賀県立瀬田工業高等学校 校長	
		笹 川 肇 子	滋賀県立長浜北星高等学校 校長	
		笹 村 俊 翼	大津市立瀬田北中学校 校長	
	※	行政関係者	飯 田 朋 子	滋賀県商工観光労働部 モノづくり振興課 課長

※：関係行政機関の職員

任期 自：令和2年12月23日 至：令和4年10月28日（2年間）

（敬称略）

	区分	氏名	現職等	備考
	専門委員	苅 井 正 士	滋賀県立長浜農業高等学校 校長	
		小 島 秀 樹	滋賀県立大津商業高等学校 校長	